

千寿にゆーす

景気・雇用、楽しく安心、活性化を柱に 昨年比2.4パーセント増 368億8千7百万

2月25日に開会した平成22年第一回定例会は、「認定こども園」や「市職員の再任用条例」等をめぐり激しい議論が交わされましたが、条例議案26件や当初予算など、すべて原案どおり可決となりました。

その主なものについてお知らせします。

当初予算 歳入

(市税) 市民の個人所得の減少や企業収益の悪化により、個人市民税2.5%の減、法人市民税8.2%の減の見込みで、個人・法人市民税総額で2.8%減の25億5千859万円とされています。固定資産税は昨年とほぼ同額の37億9千450万円、たばこ税は、やや減少を見込み4億2千301万円とし市税総額で、昨年度比1%減の74億5千700万円となっています。

(地方交付税)
国の地方財政計画

と同率で7%増を見込み133億111万円を見込んでいます。

(国庫支出金)

こども手当の創出で35.6%の大幅な増で、44億6千568万円とされています。

(市債)

元利償還に高率の交付税措置のある「旧合併特例債」「辺地・過疎対策債」「臨時財政対策債」の借り入れを基本に、前年度より2千万減の38億520万円としています。また、財政調整基金を2億4千543万円切り崩しています。

歳出

現在の厳しい経済

状況を踏まえて景気雇用対策を中心にした予算で、主に次のようになっています。(民生費)

こども手当の創設などにより11.9%の大幅増の103億1千952万円。(労働費)

ふるさと雇用再生特別交付事業や緊急雇用創出事業の増などで51.7%増の3億1千551万円。

(農林水産業費) 林業振興を図るため、日田材需要拡大緊急対策、林道コンクリート舗装整備を中心に8.9%増の21億6千196万円。

(商工費) 中小企業振興資金特別融資事業で新規の融資枠15億円を設けるなど、8.9%増の20億5千533万円。

(土木費) 地域生活道路整備事業などのインフラ整備事業中心に11.9%増の45億3千748万円。

(教育費) 咸宜小学校の耐震化などで、17.2%増の34億8千376万円。

(公債費) 前年度繰上げ償還で、22.7%の大幅減の51億8千436万円。

歳出の主な事業の内容

1. 景気、雇用対策

- ・水郷日田プレミアム商品券の5億5千万円への支援
- ・合併浄化槽設置に対する市単独の補助の上乗せ
- ・雇用対策で「ふるさと雇用再生特別交付金事業」に1億3千996万円。「緊急雇用創出事業」に8千798万円の予算による雇用機会の創出

2. 元気で活躍する日田

- ・夜間に進出予定の食品関連企業に対する支援
- ・地場産品のブランド力の強化、卸売市場存続への支援
- ・日田市活性化の牽引者となる「まちづくり会社」の立ち上げに向けた検討の開始

3. 夢と希望を持てる日田

- ・水郷日田のブランドづくり
- ・「小中学校教育環境整備推進計画」の策定

4. 楽しく安心して暮らせる日田

- ・地域福祉コミュニティづくりや障がい者、高齢者福祉の充実

5. 市制70周年・合併5周年記念事業

プラスワン

▼まず、我が家の話から。今年の暮れ今まで、二人切りの生活からあつとやう間に9人の大家族に変身してしまいました。その内孫が4名で、朝

の通勤、通学、通園時間帯の騒動は大変なもので、「ごはんを食べる」「はよ着替えんかい」「もう遅るるばい」等々怒号が飛び交っています。なんとという喧騒かと参ってしまいましたが、でも二人きりでいた時よりも、ずーっと充実、安堵感があるのが不思議です。▼今回の予算を見ても解るように、福祉等の民生費が突出しています。これから、団塊の世代が退職し「少子高齢化」が益々進みこの民生費は、大きく膨らんできます。一番気になるのが財源の確保、税制がこのままで行けるのか、真剣な議論が要ると思うのですが、どうです。

地域活性化・きめ細かな臨時交付金事業 21年度3月補正 6億201万円

3月議会では、22年度の予算案と一緒に、21年度の補正予算も審議されました。現在の厳しい経済状況を反映し、国は2次わたる補正予算を組み、それを活用した事業です。多くは老朽化した施設の改修の前倒しや特別会計への繰出金となつていきます。主な事業について説明します。

2特別会計への繰出し6千788万 改修事業12事業、整備事業3事業



椿が鼻ハイランド改修予定施設

学校支援センター設置
小中学校の事務職員の活用を図り、業務の効率化と教員に対するサポート体制を確立するため今回大山小学校、東溪中学校、戸山中学校の3校に設置するものです。

学校支援センター設置へ

教育現場は大変忙しく児童と接する機会が少なくなつていると聞いています。教員に対するサポートに効果が現れるよう願って止みません。



項目	事業名等	補正額 (千円)	事業内容
繰出金	簡易水道事業特別会計繰出金	25,882	荒平・天瀬等への配水管移設工事等
	公共下水道事業特別会計繰出金	42,000	汚水管渠整備 (花月、日の隈等)
改修事業	市民文化会館改修事業	8,554	杉木目を活かしたギャラリー壁面への改修
	椿が鼻ハイランドパーク施設改修	22,238	案内看板の改修、コテージ等宿泊施設及び風呂の改修
	東町児童公園整備	10,500	公園内のトイレの改修
	地区公民館施設改修事業	14,710	大山公民館・光岡公民館・中津江ホールの改修
整備事業	林道コンクリート舗装整備事業	60,700	生活道として利用頻度の高い三尾線等5路線3,320mのコンクリート舗装
	地域生活道路整備事業	61,136	三本松横矢線など620mの改良工事
	舗装復旧工事	93,800	若宮三芳校線など2,620mの道路舗装復旧工事

緑の分権改革 調査受託事業

国が進める「緑の分権改革推進事業」で日田市が宇佐市と共に実証調査を実施するものです。
一つは、太陽光発電に關し、日田市が補助金を交付した100世帯に発電量データの収集を行うもの。二つ目は、下の写真にある小水量発電を落差のない河川で行うもので、その発電量や騒音量を調査するものです。今回は、中野川の本町児童公園横で実施することとしています。順調に行けば、今後公共施設や公園等の外灯として利用を順次広げていくこととされています。

三つ目は、林地の残材や製材廃材・竹などが木質(林産)バイオマスとして利用可能かの調査です。3項目で3千400万円の予算ですが、温暖化防止対策としてその結果を大変期待しています。



流水式小水力発電機とその設置個所

今定例会で私が行った、一般質問が新聞で結構大きく取り扱われました。

内容は、新年度から設立に向けて取組む「まちづくり会社」の収益生む資源についての論議で質問した時に、市長の答弁で「隈地区再生プロジェクトで屋形船、鵜飼等の活性化を検討している。その中で、関係者の理解が得られるならば、屋形船を第三セクターか株式会社で所有して運営していく。」等が表明されたことに関連したものです。

新聞の報道が、内容が

以前から、屋形船の有効活用による隈地区を中心とした日田市の観光浮揚について、質問を続けてきましたが、具体的運用に関する回答があったのは始めてです。かつて「日田」は九州一の観光地と言われていました。その中心となっていたのは、「屋形船」です。その有効な活用方法を探る一歩が開けるのでないかと期待をしています。

また、関係者の方からも、期待と不安が入れ混じった意見や質問等を頂いています。



河川整備で一定の成果



「川を考える会」とも共同でコンクリートによる舗装を要望していましたが、コンクリートは無理としても利用しやすく、安全が保てる方法で整備すると聞いています。

また、固定堰下の水漏れの改善は、水を除去するパイプ等の設置で対処となり、一定の前進と受止めています。



これも昨年の9月の一般質問で要望していた三隈川の台霧橋の下の整備と固定堰下の水漏れの改善について、4月以降要望した内容に沿った形で一定の改善ができるとの回答をもらっています。

台霧橋の下については、

この一貫校を廻っては、賛否様々な論議があります。先進している東京都に先生をしている友人の多くが反対です。しかし、私は中1ギャップや小5の勉強の壁の問題解決には必要と考えています。

始めての取組であり、成果を期待して状況を見守りたいと考えています。

私としては、利用するお客さんの立場で、十分に満足出来る運用方法。何時でも誰でも気軽に利用でき、単に宴会だけでなく、散歩の休憩所、朝市のお店、また釣り船等々の多様な利用ができる屋形船にすることが必要と考えています。今から、検討を開始するとのことであり、関係者と慎重で前向きな話し合いを強く望むところです。

興味津々 日田市で初めての 施設一体型小中一貫校

下の記事は4月1日の読売新聞のものですが大変興味深く読みました。

今、全国で小中一貫校の取組が進められています。私も昨年12月議会の議案「南部中学校の増改築の問題」

日田に小中一貫校新設へ

市教委は、6年生に付いた中1の授業を2年分を減らし、中1の授業を2年分にする。中1の授業を2年分にする。中1の授業を2年分にする。

日田市は、同市の建設費削減のため、中1の授業を2年分にする。中1の授業を2年分にする。中1の授業を2年分にする。

日田市は、同市の建設費削減のため、中1の授業を2年分にする。中1の授業を2年分にする。中1の授業を2年分にする。

で、校区内で小中一貫校を見据えた建築にすべきではないかという主旨の質問をされました。回答は、「この校区については考えていない。」というものでした。

しかし、今回大鶴の「静修小」と夜明の「夜明小」の統合に伴い、今の「大明中」に施設一体型で実現することになりそうです。

佐藤市政に激震?! 石松福市長突然の辞任

1月頃から、噂としては小耳にはさんでいましたが、こうなると大変なことになったと思っています。

議会で行った辞任の挨拶で「行政施行の面で私が補佐する面は少なく、(中略)逆に市長の手法や考え方について、私の中で戸惑いや違和感があったことも事実であります。」や「こうした不満や不信感が募る現体制の中で、私は副市長としての役割や存在価値、必要性を見出せず、このまま職に留まることは佐藤市政にとりましても、市議会や市民の皆

任期途中 認識の差埋まらず

石松副市長が退職願

「石松副市長が退職願を提出した」というニュースが、佐藤市議会に大きな衝撃を与えている。石松副市長は、任期途中に退職願を提出した。これは、佐藤市長との認識の差が埋まらずに、結果的に退職に至ったことである。石松副市長は、佐藤市長の政策や手法について、戸惑いや違和感を感じていたと述べている。また、市長との間で市政についての考え方の溝が埋まらなかったことも、退職の理由として挙げられている。

定着してきた美化意識



防犯条例が施行されて以来、市内のあちこちでグリーンベストを着用して朝早くからごみ拾いをしている人を多く見かけます。以前は、ポイ捨てが気になって仕方ありませんでしたが、今は感心することの方が多くなりました。身近で行える美化運動が定着し、水郷日田がより美しい町になることを強く望んでいます。

市役所で行われた新しい美化監視員の紹介



広瀬淡窓の名を広く世界へ知らせなどで日田市の活性化などへの効果が期待できるものと考えますが、しかし日田市が果たして世界遺産にふさわしい文教都市として教育環境や文化を創りだせるのか等課題も多く含んでいる施策と思つていきます。

様にとりましても好ましいことではなく、・・・と市長との間で市政についての考え方の溝が埋まらなかったことつを述べています。

また新聞の報道では「認識の差」埋めることが出来なかったことと等が突然の辞任の主な理由のようです。就任当初は、困難な合併協議をまとめるなどその行政手腕を高く評価されていただけに非常に残念です。この辞任は、今後の市政運営に大きく影響を及ぼすのではないかと懸念しています。

咸宜園を世界遺産に



「学びの文化」を世界遺産に
日田市も今年度615万円の予算でこれらの3市と連携し登録へ向けて推進しようとしている。

このパンフレットは、水戸市が作成したもので、内容は、茨城県水戸市の弘道館、栃木県足利市の足利学校、岡山県備前市の閑谷学校、そして日田市の咸宜園を近世日本の学問・教育の遺産群を、「学びの文化」として世界遺産に登録しようというものです。

政権交代から半年あまり どうなってるんだ

と云う、叱責、激しいご支援、声援を近頃よく頂きます。悲願であった「政権交代」がなり、大きな期待が寄せられたにも関わらず、今内閣の支持率が危険水域の30%近くです。多くは「政治とカネ」の問題を指摘されますし私もそう考ます。政権内では、まだなんら対策を講じていませんが、国民の鋭い指摘は日増しに強まっています。審判が下されるのは、選挙それまでには何らかの方策を。と願っています。

世界遺産への登録は、市のイメージを高め、市民からは、「今ここでん世界遺産、遺産と言っている。簡単に出来んことをやるよりも足もとでもっとすることがあるんじゃないか。」と言う辛辣な意見も伺っています。